

令和4年度「米原市学力状況調査」の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

米原市では、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、平成17年度から学力状況調査を実施している。

この調査は、学習内容の理解度を測る「教科学力」とともに、その背景となる「学習意識」も客観的に調査し、米原市の児童の学ぶ力の実態を多面的に把握するものである。

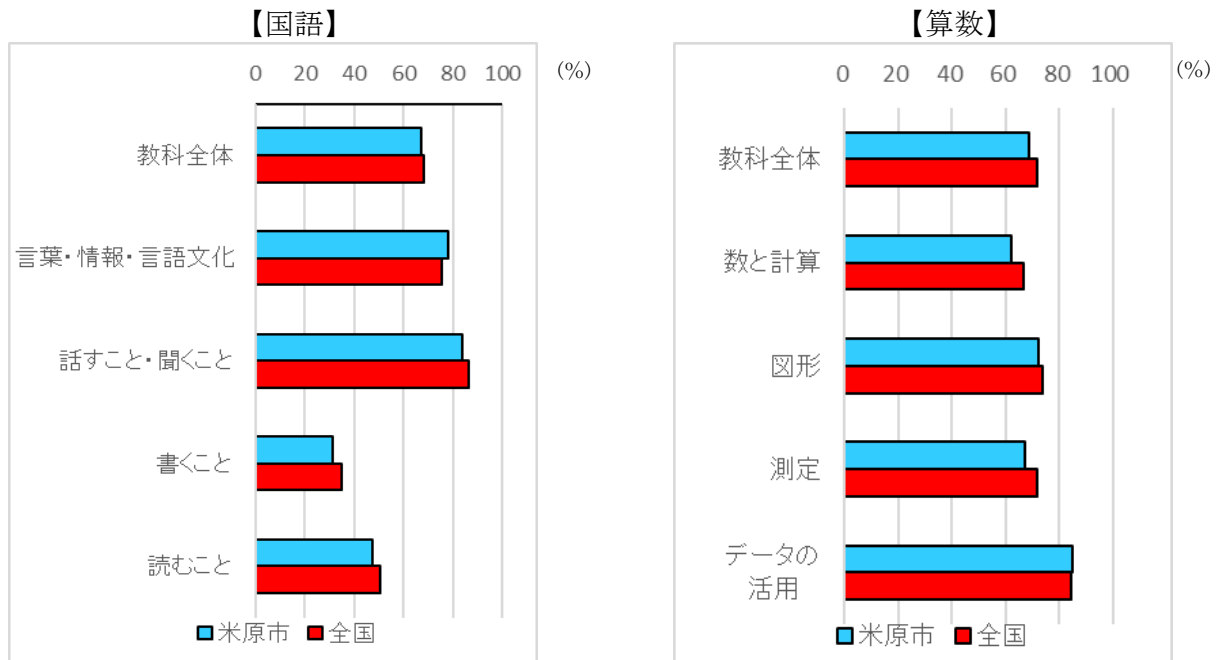
そして、その結果を分析し、各学校の実態に応じた授業改善へとつなげていく。さらに、学校が児童生徒一人ひとりの学習定着状況を把握し、的確な個別指導を行うための一助とする。

(2) 調査の対象および内容

- ・調査対象 … 小学校第4学年（市内9校）349人
- ・調査内容 … 標準学力調査 国語・算数の2教科（各40分）
意識調査 「学びの基礎力」「社会的実践力」「学級力」「家庭学習力」
「米原市独自の質問」（45分程度）
- ・調査期日 … 令和4年6月13日（月）～6月17日（金）のうち各校が定めた日

2 標準学力調査の結果

(1) 標準学力調査の平均正答率



国語は、全国平均をやや下回っている。
「言葉・情報・言語文化」の領域は全国平均を上回る一方で、「書くこと」の領域が特に課題があるといえる。

算数は、全国平均を下回っている。「データの活用」の領域は全国平均を上回る一方で、その他すべての領域で全国平均を下回り、特に「数と計算」の領域に課題があるといえる。

(2) 全国正答率と比較して差が大きい問題

【国語】「読むこと」「思考・判断・表現」

3

犬の「オレ(サスケ)」は、「サチコさん」のかい犬である。
 サチコさんは、イヌのことばがわかる。
 「おはよう、サスケ」
 「おはよう、サチコさん。おなかすいたよお」
 「さあ、サスケ。ごはんよ、どうぞ」
 ほらな。サチコさん、オレのいつてることがちゃんとわかってるだろう？
 「サチコさん、おかわりくれよお」
 「あら、もうたべちゃったの？ おかわりをもってきてあげるからね」
 ほらな。かんべきにわかっているだろう？
 ●サチコさんは、すこくかしこいのだ。きつと、しつかりべんきょうしたのだろうな。だから、オレのことばがわかるのだろうな。
 このあと、サチコさんはしごとにでかけてしまう。そのあいだ、オレはわで空やにわの花をながめる。
 とてもいいきぶんだ。
 だけど、あいつがくると、いいきぶんはいないんだ。でっぷりしたからだのあいつ。大きさはオレよりすこし小さい。イヌとにているけど、ぜんぜんちがう。
 ①あいつは、ネコだ。
 「おい、おまえ、ここはオレのわだ。かってにとおるな」
 オレがいつても、あいつはちよつとこちをみるだけ。オレのことばがわからないらしい。
 ことばがつうじないというのは、ほんとうにこまる。ゆうがた、しごとからかえってきたサチコさんとさんばにでかける。
 「ゆっくりあるいていこうね」
 サチコさんがそういえば、オレはちゃんとゆっくりあるく。
 オレもまた、ニンゲンのことばがわかる、かしこいイヌなのだ。
 「サチコさん、きょうは風がきもちいいなあ」
 「サスケ、きょうは風がきもちいいわね」
 「サチコさん、ほら、空がきれいだね」
 「サスケ、みて、空の色がすこきれいよ」
 ああ、ことばがつうじするってすばらしい。
 オレはサチコさんといっしょにいるときがいちばんたのしい。いちばんしあわせだ。
 (草野たき「なにがあっても、ずつといっしょ」より)

4 次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

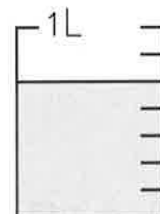
(2) 〃線①「あいつは、ネコだ」とありますが、サスケはこのネコのことをどう思っていますか。次の1～4からふさわしくないものを一つえらんで、かい答用紙の番号に○をつけましょう。

- 1 でっぷりしていて、サスケより少し小さい。
- 2 イヌとにている、きもちをわかってくれる。
- 3 やってくると、いやなきぶんになる。
- 4 ことばがつうじないので、ほんとうにこまる。

【算数】「知識・技能」「分数・分数の計算」

2

(3) 右の図のように、入れ物に水を入れました。この水のかさは何Lですか。分数で表しましょう。



3 意識調査の結果

(1) 意識調査の平均スコア

① 「平均スコア」とは

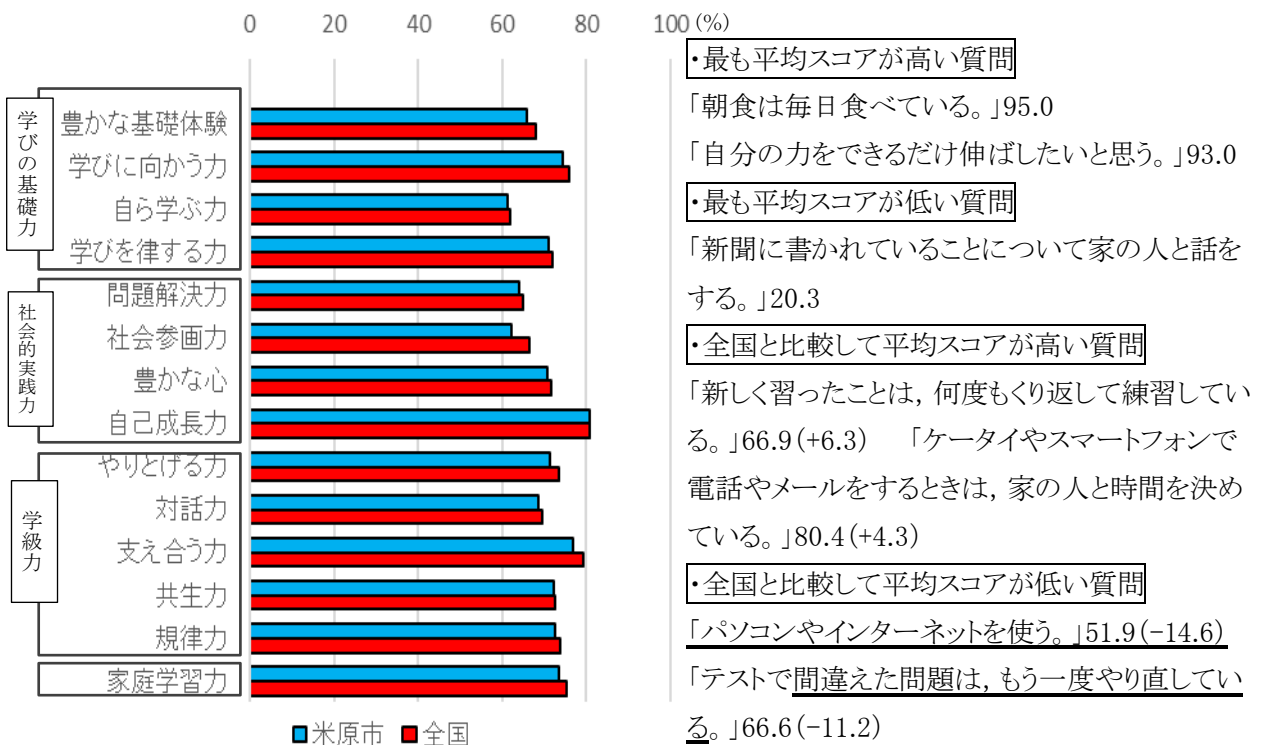
各質問の回答内容を望ましい回答内容にウェイトを置く形で数値化し、集団の学習意識の傾向をつかみやすくしたものです。4択の質問を対象に、各選択肢に次の配点で得点を与え、カテゴリー毎に算出した平均値に25を掛けた値。

最も望ましい／良好な選択肢 (強い肯定)	に「配点：3」
次に望ましい／良好な選択肢 (弱い肯定)	に「配点：2」
改善／配慮を要する選択肢 (弱い否定)	に「配点：1」
特に改善／配慮を要する選択肢 (強い否定)	に「配点：0」

② カテゴリー分類

- I 学びの基礎力 ⇒ 『豊かな基礎体験』…「基礎体験」「基本的生活習慣」
⇒ 『学びに向かう力』…「感じ取る力」「学習動機」「自己責任」「自己有能感」「達成感」
⇒ 『自ら学ぶ力』…「学習スキル」「学習定義のための方略」「学習計画力」
⇒ 『学びを律する力』…「学習継続力」「学習のけじめ」「学習環境の整備」「授業を受ける姿勢」
- II 社会的実践力 ⇒ 「問題解決力」「社会参画力」「豊かな心」「自己成長力」
- III 学級力 ⇒ 「やりとげる力」「対話力」「支え合う力」「共生力」「規律力」
- IV 家庭学習力

③ 小学校第4学年の平均スコア



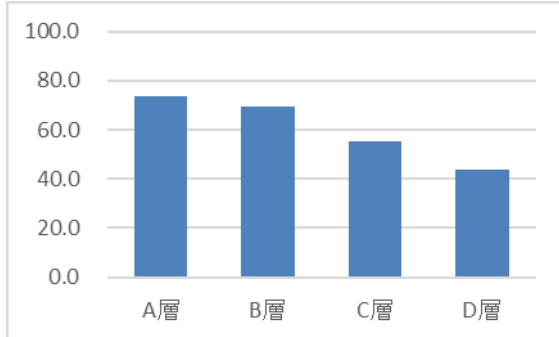
全国平均と比較すると、全体的にやや下回る。「自己成長力」の値が8割を超え、良好である。一方、「社会参画力」の低さや、パソコンやインターネット等のICT活用についても課題が見られる。社会参画力に関わる質問は、「テレビのニュースや新聞などで、最近の社会のできごとをよく知っている。」「社会で問題になっていることについて、どうすればよいか、考えたことがある。」等があり、米原市の改善案としては、ニュースや気になる出来事についてインターネット等を使って調べ、調べた内容について発表するなどの活動を定期的行うことなどが挙げられる。

(2) 学力調査結果とのクロス集計

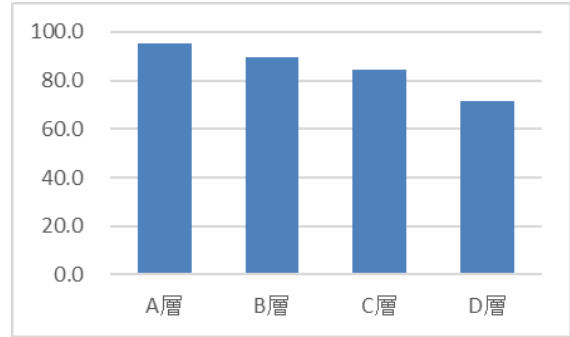
※児童・生徒を標準学力調査の受検教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。

① I 学びの基礎力

「本や新聞を読んでいる。」

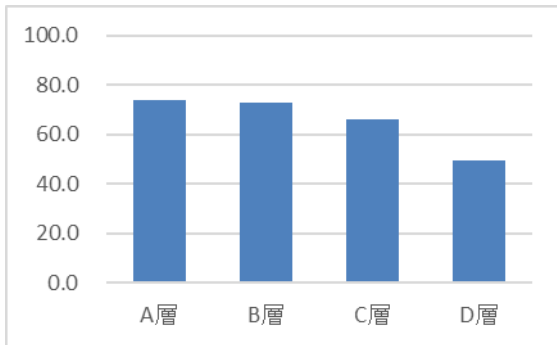


「同じ間違いをしないように気をつけている。」

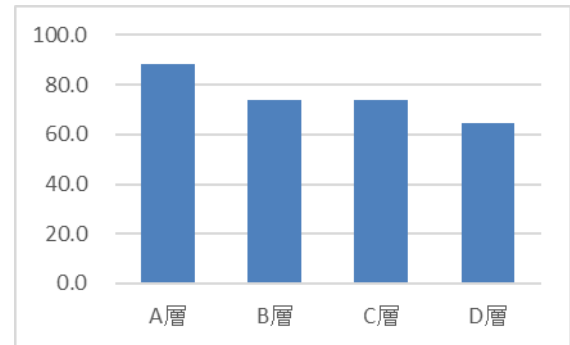


② II 社会的実践力

「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」

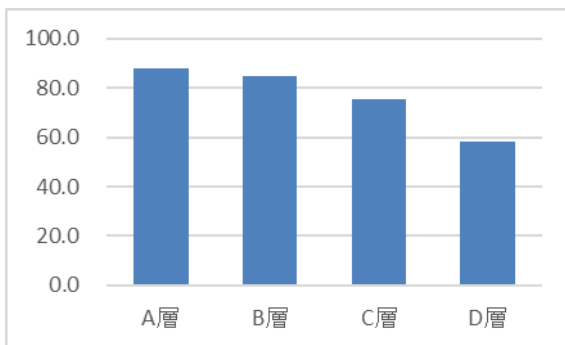


「いつも新しいアイデアを考えたり、工夫したりしている。」

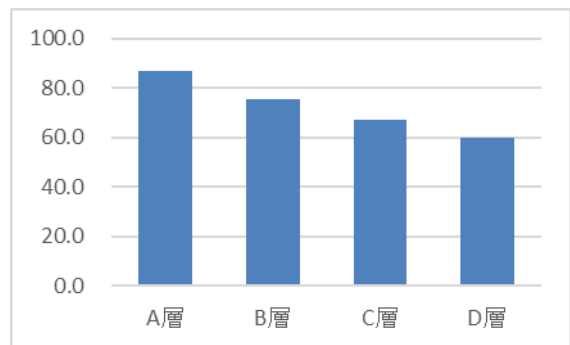


③ IV 家庭学習力

「テレビやラジオをつけないで集中して学習している。」



「自分の得意な分野をさらに伸ばすために、家で自分なりに学んでいることがある。」



学びの基礎力のカテゴリーでは、本や新聞を読んだり、同じ間違いをしないように気をつけていると答える児童ほど、学力が高い傾向が見られる。
社会的実践力のカテゴリーでは、自分の考えを分かりやすく伝えたり、工夫したりしていると答える児童ほど、学力が高い傾向が見られる。
家庭学習力のカテゴリーでは、ながら勉強をしなかったり、自分の得意分野をについて自分なりに学習している児童のほど、学力が高い傾向が見られる。

4 考察

今回の学力調査では、国語・算数ともに全国平均をやや下回り、課題が見られた。その要因として、国語では、特に「書くこと」（文章を書く問題）に苦手意識が見られることから、改善策として、身近な出来事について、日頃から短い文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせる取り組みが考えられる。算数では、特に「数と計算」や「分数の計算」をはじめ、基礎的な学力が定着していないことから、改善策として、10分間のモジュール学習やドリル教材などを活用した持続的な反復練習や、「長さ・重さ」や「時刻と時間」など、児童に身近な例を積極的に取り上げる取り組みが考えられる。

また、4層分析により、学力層を上位から順に25%ずつ、4層（A-D層）に分けてA・B・C・D層間のどこに差が生じているか等に注目すると、C-D層の差が、A-B層・B-C層の差より大きいことがわかる。つまり、一部の児童の学力が未定着であるため、該当の内容の理解の前提となる基礎的・基本的な知識・技能にさかのぼった個別指導を行うことが有効だと推察される。

5 学力向上の策定について

今後も学校では、児童理解につとめるとともに、子ども一人一人に合わせた支援を行っていききたい。また、市内各小中学校においても、各校独自の分析や課題改善に向けた学ぶ力向上策を策定し、具体的な取組と検証を進めていく。

一方、家庭での生活・学習習慣のますますの定着を目指して、学校と家庭がしっかりと連携していききたい。特に、クロス集計で学力との相関が見られた、「日頃から本に親しむこと」「ながら勉強をせず、自分なりに学習をすすめること」「同じ間違いを繰り返さないように工夫すること」等の指導を家庭や地域にも周知し、学校と両輪で児童を支援し続けることが肝要である。学校でも家庭でも児童が充実感を得られる経験を増やすとともに、児童一人ひとりが夢や志を抱き、子どもたちが自分の未来を自分でつかむ力の醸成を目指していききたい。